

偏差値40の売れない営業マンが

営業だけで起業した話

椎葉 誠

「世の中は不平等である」。

社会に出て、社会の荒波に揉まれ実感した嘘偽りのない感情だった。

多くのサラリーマンは二つに大別される。

向上心豊かで、旺盛な出世欲を持ち、上を目指す人間。

安定を望み、闘争を避け、目立たず実直に仕事をする人間。

どちらが正しい、間違っている、などということは誰にも判断できないことはあるが、こと『営業』という狭い世界で言えば、前者が正しい。

もし、今、この本を手にとってくださったあなたが、向上心豊かで、大望を胸の内に秘めているなら、そうなりたいのに、学歴や頭脳にコンプレックスを抱えているのであれば、僕は迷わず『営業』の世界をおすすめする。

この本は偏差値四十のFランク大学を卒業した僕が、一部上場企業に就職し、売上数字を一年半で三倍にしたノウハウと、実体験を書いたものである。

学生時代、まったく勉強をせず、まともな学歴もない。「取り柄は明るいところですよ！」しか言えない。しかし、胸に野望を抱き「いつか本気を出したら、俺はやれる！」そう思っている方は、僕だけではないだろう。

実際、僕は十年間勤めた会社を退職し、大学生の就職に関する支援もしてきたが、同じように「大きな野望を抱いているが、学歴がコンプレックスになっている」という学生を多く見てきた。

社会に出てみると感じるのだが、学歴だけで出世できるような世界ではない。しかし、高学歴の人を前にすると縮み上がる。それが学歴コンプレックスを抱えた人間の習性である。

そういった人間が、学歴というものを帳消しにできる世界。結果と数字だけがすべての世界。それが営業の世界だ。

……これがいかに平等で残酷な世界か……。

その人間の過去の努力と結果をすべて消し去り、今現在の数字と結果だけの世界。僕のように、偏差値四十、Fランクの学校を卒業した人間の多くは、学生時代勉強をしてこなかった人間が多い。要するに怠けていた、ということだ。

逆に、優秀な大学を卒業した人間はそれ相応の努力をしてきている。

もちろんどちらも一部例外はあるだろうが、卒業時点の努力の積み重ねといった部分では、どちらにも軍配が上がるかは一目瞭然である。

友達が遊び呆けている間、ひたすら勉学に励み、積み重ねてきた知識。

時間とお金を投資し、自分の学力を磨いてきた十数年間の実績が、営業の世界では売上数字未達という一事で評価が覆る。

恐ろしい世界だと痛感する。

しかしながら、僕のような学歴のない人間にはこれほど平等な世界はない、と思っっている。過去の努力ではなく、今の努力と、未来の努力を評価してもらえる世界。

今から、自分を変えたい！ 出世をしたい！ 大望を成したい！ と思うのであれば、営業の世界は素晴らしい世界である。

当然、積み重ねの少ない分、努力を要する。何の努力もなしに成果をあげることができるといほど甘い世界ではない。

ただ、僕にはバカだからできた努力がある。その一部をご紹介し、この本で営業の世界がいかに素晴らしいかを少しでも知っていただければ幸いである。

また、現在営業職についている方だけではなく、新入社員の方、管理職として部下をお持ちの方にも読んでいただき、何かを掴んでいただければ、と思う。

そしてぜひ、部下にも読ませていただきたい。

営業の世界は素晴らしい。これから営業の世界に飛び込もうとしているあなた。すでに営業の世界に身を置き、苦戦をしているあなた。営業マンとして輝かしい成績を残してきたが、部下の育成に悩んでいるあなた。

この本は営業にかかわるすべての方に贈る本である。